

ぐるっと音楽紀行

旅するピアニスト

赤松林太郎

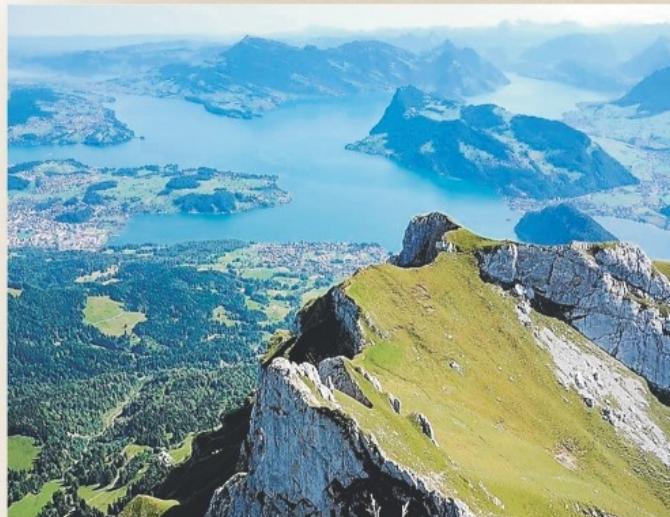
スイス・
ルツェルン

7月からの2カ月間、ヨーロッパは長いバカンスシーズン。新型コロナウイルスのワクチン接種が早かった欧米は、マスクなしで夏休みを楽しむ人々の姿が多く報道され、流れてくる映像を見るかぎり、コロナは過ぎ去った風かのようだ。とはいっても、本当の出口はまだ見えないどころか、ゴール 자체が動いているような気さえする。

私も8月下旬から週間ほどヨーロッパに渡るのが常だが、2年続けて行くことができなかつた。

例年なら、バカンスを兼ねて各地で開催される音楽祭や講習会で、マスタークラスを担当したり、コンサートに出演したりする。もともと、ピアニストは旅がらずなので、バカンスといえども1カ所にとどまることがない。イスの山に魅せられて以来、夏のバカンスでは必ずルツェルンに滞在する。ルツェルンは峰に抱かれた湖畔の街で、1938年から始まった音楽祭で知られている。

ワーグナーが愛した湖畔の街



上 ピラトゥス山頂からの眺望
下 ルツェルンの音楽祭メイン会場からの光景(いずれも赤松林太郎さん提供)

◇原則第2月曜に掲載します。



あかまつ・りんたろう 1978年、大分県生まれ。2歳から神戸で育つ。兵庫高、神戸大発達科学部卒。パリ・エコール・ノルマル音楽院高等演奏家資格首席取得。2007年に帰国し、国内外で活動。洗足学園音楽大客員教授、大阪音楽大特任准教授。神戸市在住。